

Market Report

2023年6月号



インドネシアのパーム油生産量及び価格見通し

1. 実績

CPOの販売価格は2022年末時点で下落傾向にあり、2023年に入ってから下落している。

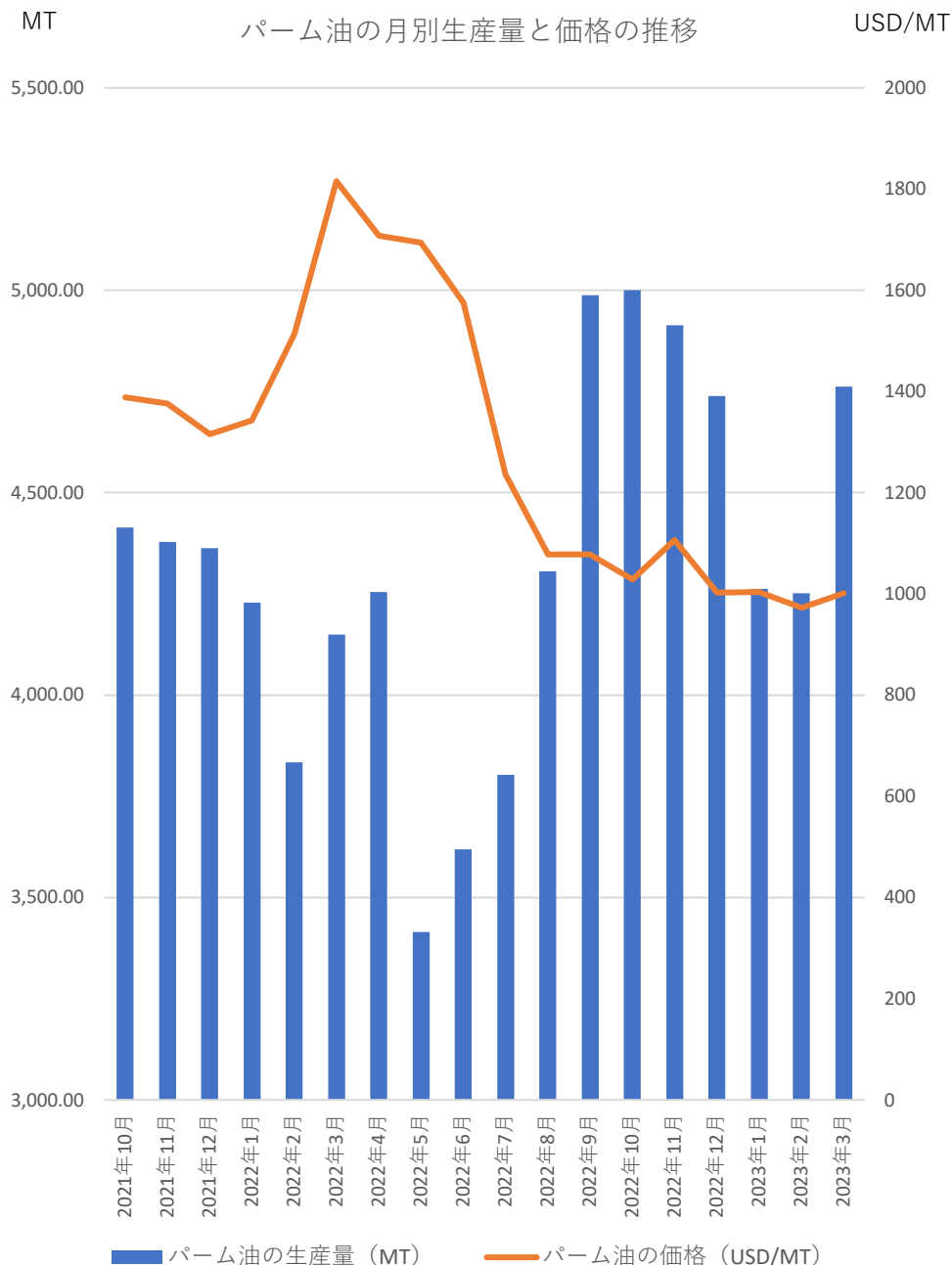
パーム油の生産量は2023年2月までは減少していたが、3月に入ると2月と比較し、510MT増加した。

2. 見通し

2023年に入ってから、インドネシア政府が地域社会に安価な食用油を供給するために行っている国内市場義務（DMO）メカニズムによる輸出枠の制限がされており、CPOの輸出量を制限するとの見通しが立っている。

また、今年EUが森林破壊に関連する商品の輸入を禁止する法律を可決したことから、インドネシアやマレーシアのパーム油に打撃を与えるという予想もされている。

2023年6月のCPO生産量の予測は3,823MTとなっており、昨年の6月の実績3,169MTと比較すると654MTの減少が見込まれる。



インドネシアからのPKSの輸出量及び輸出額見通し

1. 実績

2023年3月のインドネシアでのPKS輸出量は499,819MTを記録し、外貨価値は56,905,608USDになった。一方4月には輸出量は303,968MTになり、3月と比較して39.18%（195,850MT）の大幅減となり、輸出額も減少した。

2023年4月の最大の輸出先は日本で輸出量は273,349MT、市場シェアは89.92%となった。

2. 見通し

ラマダンやレバランを含めてCPOミルの稼働が落ちたため、PKSの供給がタイトになり価格が高止まりしていると予想される。

輸出税に関しても、直近は8ドルだが、CPO価格が若干上がることが予想されるため、輸出税も上がると見込まれる。

